公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をしたい人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第18回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション（vol.26）

□テーマ　『つながり合うステークホルダーでつくるアットホームな町・豊崎』
□コーディネーター：一般社団法人うめらく　代表　山田摩利子
□ゲストスピーカー：豊崎地域社会福祉協議会会長　小玉　始　様
□日時　　2021年10月12日（火）　18:30−19:30
□方法　　オンライン会議システムZoomウェビナーによる開催

豊崎地域は、JR大阪駅の北側および大阪メトロ御堂筋線中津駅東側に位置し、地域内を南北にJR京都線・新御堂筋が走っているエリアです。豊崎地域では、地域団体×小学生が連携してつくるコミュニティ畑「豊崎農園」や、地域団体×マンション理事会がマンションコミュニティ事業の一環として「防災講座」や「百歳体操教室」を行うなど、地域団体側がつなげ役となって新しい地域のつながりの芽をつくりみんなで地域を育て合う、持続可能なまちづくりが行われています。今回は、ステークホルダー同士がつながるきっかけや、実際に地域で行われている具体的な取り組みなどを紹介いただきながら、これからのまちのあり方について考えてみました。

山田氏：今日は、豊崎地域から小玉会長にお越しいただきました。まず、豊崎地域と小玉会長の自己紹介をお願いしたいと思います。

小玉氏：豊崎地域でボランティアをしております小玉でございます。47年ほどサラリーマンをやっておりまして、本格的に地域のコミュニティ活動をさせていただくようになってから、今年で15年ぐらいになります。

山田氏：小玉さんは北区社会福祉協議会の会長をされておられますね。まずは、「豊崎ってどこ？」というご案内からです。茶屋町の北側が豊崎です。私個人的に豊崎で馴染みがあるのが、こちらの写真にある“豊崎長屋”です。昭和の素敵な風景が残っています。

小玉氏：“豊崎長屋”は俗に“大正長屋”とも呼ばれます。大正10年から14年にかけて建てられた長屋で、23の区画がございます。豊崎地域の南の端の方にありまして、町会でいうと豊崎一丁目というところです。母屋は“吉田邸”ということで、ここ一帯の地主さんが住んでおられます。

山田氏：昭和20年の航空写真を見ますと、豊崎だけでなく茶屋町、中崎町、中津にも結構長屋がたくさんあったのですね。打ち合わせの時に長屋と文化住宅の違いをお伺いしたのですが、少し教えていただけませんでしょうか。

小玉氏：長屋は、1棟で4軒から5軒ぐらいの家が連続して建っていて、基本的には2階建てです。文化住宅は、2階建てですが、1階と2階で住んでおられる方が違います。大阪市の人口が増えたことによって、ドーナツ化現象が起こりまして、周辺の市町村に人口が流れてきました。私は実は以前門真市に勤めておりまして、門真市も人口が急増しました。その時に文化住宅がたくさんできたということです。

山田氏：もともと都心部で長屋があったのが、そこからドーナツ化現象で出て行ったところに文化住宅がたくさん出来てきたという背景があるのですね。ここからは、豊崎地域での活動についてご紹介をさせていただきます。豊崎小学校と企業との連携を建設コンサルタント昭和設計さんとされている取り組みについて教えてください。

小玉氏：豊崎小学校は児童数173名で北区11校のなかでいちばん児童数が少ない小学校ですが、私どもは以前から、子供と地域のつながりというのを念頭においておりました。昭和設計さんは4年前に創立60周年ということで、社長曰く、何か豊崎地域に貢献したいのですがという申し出がありました。昭和設計さんは総合建設コンサルタントの会社ですので、ストローを用いた立体的な造形工作の体験教室をしていただきました。

山田氏：なかなか学校の授業ではできないような事を教えていただけるのですね。ここから建築家になりたいという子供たちが出てくるといいですね。次に、松下徽章さんはどんなことを小学校でされたのでしょうか。

小玉氏：松下徽章さんにつきましては地域で44年ぐらい営業されておられます。松下徽章さんは、トロフィーやカップ等の販売をされておられますので、小学校で“褒め展”というのをやっておられます。そこでは褒めることについて、子どもたちが何らかのアクションを行うということです。そして豊崎にピアスタワーがあります。ピアスさんは化粧品の会社ですが、ピアスタワーに入ったところにあるギャラリーを平日に無料開放しますので、何かイベントで使ってもらえないかという申し出がありました。それで、地域の催し物や、松下徽章さんとか昭和設計さんが子供たちと一緒に作ったアートな作品の展示もさせていただいています。

山田氏：先ほど小玉会長が、子供たちの育成を地域として応援されているというお話をいただきましたが、豊崎小学校の変遷ということで、豊崎小学校のことをご紹介したいと思います。

小玉氏：本校は大正4年が創立です。大正9年の写真では木造の校舎でした。昭和16年になりますと、鉄筋の校舎も出来ています。この頃は1クラス50人ぐらいだったのでしょうね。産めよ、増やせよの時代でしたから、児童数は多かったのでしょう。

山田氏：資料を見せていただいた時に、1,000人の子供が通っていたというときもあったということですが。

小玉氏：そうですね。一時は豊崎の人口が、渋谷に次いで日本で2番目の人口であったということが文献に記載されています。おそらく、明治時代の“キタの大火”　で被災された方が北側の豊仁、豊崎東、本庄や豊崎の方に移住されたのではないかと思います。

山田氏：地下鉄中津駅付近に土地勘のある方でしたら、たこ公園という公園があるのをご存知だと思います。あのたこ公園がもともと小学校だったそうですね。

小玉氏：尋常高等小学校としては第一が豊崎本庄小学校、第二が豊仁小学校、第三が豊崎小学校、第四が豊崎東小学校、第五が豊崎中学校ではなかったかな。第六は、山田さんがおっしゃっていましたように豊崎五丁目にあるたこ公園のところにできたと言われております。

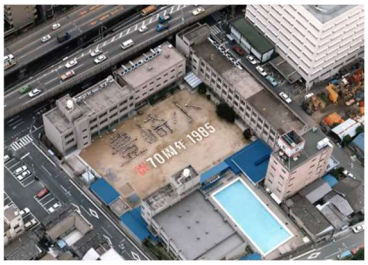
山田氏：昭和20年6月1日の大阪の空襲で豊崎小学校が焼けてしまって11月には豊崎本庄小学校で授業が再開されたのですね。

小玉氏：昭和30年に豊崎小学校が再開校になっております。なお、豊崎中学校には本庄小学校、豊崎小学校、豊仁小学校、豊崎東小学校から入学していたので、その当時は13クラスか14クラスだったと記憶しております。

山田氏：まだまだ小学校のお話が続きますけれども、こちらは昭和33年です。

小玉氏：北側の校舎と西側の校舎があります。この西校舎の際に、新御堂筋が通っています。

山田氏：これは、昭和 36 年のプール竣工の写真ということで、プールの前で集合写真というはなかなか無いと思いましてピックアップしました。これは、昭和 60 年の 70 周年の写真です。



小玉氏：1985 年というのはなぜこういうかたちで入れたかといいますと、（私の記憶が間違っていたらごめんなさい）阪神タイガースが優勝した年度ではなかったでしょうか。

山田氏:平成２年の写真です。手前にはちゃんと学校の校舎が写っているのですが、後ろに回生病院が被っています。小学校の後ろ側に回生病院というのが昔あったのですね。

小玉氏：この時はまだ豊崎に回生病院がありました。今は移転されて新大阪の北側に移っています。回生病院の跡地には 35 階建てのタワーマンションが建っています。豊崎のタワーマンションは、中津の駅前、昔のラマダホテルの跡が 50 階建てで、その若干南となりに、ホテルコムズ大阪、昔の三井アーバンホテルの跡が、45 階建てです。それと私どもの町会には 28 階建てで世帯数 130 があります。

山田氏：子供の数が増えそうですね。

小玉氏：昨年から、豊崎小学校の西北にある職員室のところを増改築しまして、そこに６階建てのエレベーター付きの校舎を建設中です。教育委員会曰く、若干ですけれども右肩上がりの人口増になってくるというデータに基づいて今建設していただいているところです。

山田氏：ちょっと一息ということで、懐かしい電車の写真を入れてみました。

小玉氏：阪神電車の北大阪線ということで、野田から天神橋六丁目までです。先ほどの豊崎長屋のちょうど南側のところに電車が通っていまして、我々は小さい時は“チンチン電車”と呼んでいました。チンチン～と車掌さんが鐘を鳴らしていました。

山田氏：北大阪線は昭和 50 年に廃止になっていますね。この阪神電鉄北大阪線の北側が旧大淀区ですね。

小玉氏：線路の真ん中を境にして、南側は今の済美地域です。なので、自動車事故を起こした場合には、旧の北区で起こしたら、曽根崎署の管轄になります。旧の大淀区で起こしたら大淀署ということです。

山田氏：地域交流も盛んにされているということで、豊崎のふれあい農園ですね。新しい福祉会館の横のところでこういったふれあい農園をされているのですね。

小玉氏：昨年の４月に豊崎福祉会館がリニューアルしました。それの北隣にこのような約 110 ㎡の畑があります。現在地域の方がふれあい農園という組織を作りまして、昔からここでお芋さんを植えておられます。小学校と共同でやっていまして、５月の連休明けに、１年生と２年生の児童が来て、イモの苗植えをします。子供たちがこういった土いじりをするということは、おそらく皆無だと思います。芋を収穫したら学校に持って帰って、学校の先生方がスイートポテトを作られて、それを高齢者食事サービスの時に振舞います。１年生、２年生の児童が来て、歌を歌ってもらうということをしています。子どもたちがまず土いじりをして、苗植えをして、収穫をして、調理をして、お年寄りとお話をする、こういう一連の流れを続けています。

山田氏：そのほかの地域活動としては、豊崎神社のお祭りは昔から行われています。そこでは餅つき大会があったり、豊崎えびすがあったりということです。最後に、マンションコミュニティということで、冒頭のほうで北区の住民の９割がマンション住民ということでご紹介をさせていただきましたが、豊崎のほうで、マンションコミュニティという取り組みがされていたので、少しご説明をしていただけますでしょうか。

小玉氏：平成 30 年に北区が、マンションコミュニティ支援事業を立ち上げられました。９割の方がマンション住民であれば、マンションコミュニティを重点的にやっていかなければ、今後北区のコミュニティは成り立たないのではないかという前北区長の発案でやったと聞いております。１つ目のテーマは防災で、最初に大淀西地域の山崎連合町会長さんが、マンション住民のための「防災のしおり」をつくられました。山崎さんから「おまえのところもやれよ」と言われまして、私どもは２番目に作らせていただきました。防災については北区全体のかたちはあります。しかし自分のマンションは自分たちで守らないと他人は守ってくれないということが重要です。高齢者のリストを作って、有事の場合にはいちばんに助けにいこうということで、マニュアルを作りました。一昨年の 12 月に私のマンションに全区配布しました。２つ目のテーマは福祉です。「いきいき百歳体操」というのは、大阪市の 24 区でやられていますが、マンションには必ず管理事務所があるということで、そこで百歳体操をやろうということです。地域でやっている百歳体操と私どもの百歳体操とはまるっきり一緒ですが、ノー化粧、スリッパひとつで来られる気楽さがあります。

山田氏：色々と地域の企業さんだったり、学校だったり、マンションだったり、色んなところとのつながりを作っておられて、利害関係のある方々がすごく巧妙につながり合っているというお話なので本日は「ステークホルダーでつくるアットホームな町」というタイトルをつけさせていただきました。

三本松：ひとつお伺いしたいと思うのですが、先ほど豊崎神社でお祭りがあるというようなご紹介がありましたが、お寺も３軒ぐらいあったかと思います。そういう神社とか、お寺の方々というのは、まちづくりに対してどのような関わりを持っておられるのでしょうか。

小玉氏：神社につきましては、豊崎は豊崎で氏子会があります。また豊崎のほか、本庄地域、済美の一部、北天満の一部の地域で豊崎神社を支えているということです。先ほど紹介がありました、１月のえべっさんや７月の夏祭りについては、４つの地域の方々が協議をするようなかたちで運営していまして、大人から子供までが参加できるような催しになっています。そのなかには私も１スタッフですが、若い方も入ってきています。もうひとつ、お寺との関係ですが、そこのご住職につきましては、地域の役員さんになっておられるということで、特に保護司をされている方につきましては長くやっておられますね。また、豊崎宮司の方もボランティアをやっていただいていますし、奥様は北区女性会の会長もされているというようなことで、行事の役とあわせて、地域の役もやっておられるというようなことで、ある程度はそういう面でもコミュニティといいますか、ストレートにお話ができる状況ではないかと思います。そういうことで私どもは若干恵まれているのかなという気はしております。

三本松：こういうお寺とか神社の方がまちづくりに前向きで、開かれた宗教施設があるというのは街にとっても拠り所になっているのかなと思いますし、様々な催しを通じて皆さんの集いの場ができたり、子供たちの思い出の場になったりしているというのが、少しオフィスと住宅の混ざっている場所でありますけれども、潤いのあるまちづくりができているのかなと思っております。ありがとうございました。

小玉氏：今日は長時間本当にありがとうございました。コロナ禍の影響でマスクが顔の一部になって２年ほど経ちます。先日、ある新聞に載っておりましたのでご存知かもしれませんが、

「忘れちゃう　マスクの下の　笑い顔」

ある小学生の一句らしいです。おそらく来年は、全員がこのマスクを取って、皆さんの素晴らしい笑顔を見せていただければ、私も幸いでございます。

山田氏：ありがとうございました。